春風秋霜 3月号

平成３１年３月１日
島田市教育委員会だより
教育長　濱田和彦

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む　　佐藤一斎

1　プログラミング教育について

２月 13 日（水）に島田 ICT 教育シンポジウムが行われました。その中で、静岡大学教育学部紅林秀治教授による「普通教育としてのプログラミング教育について」という講演が行われました。プログラミング教育は、新学習指導要領により平成 32 年度から必修になります。学校ではどのように取り組むかを検討中だと思いますが、何をどの程度行うかが明確になっていない学校も多いと思います。

紅林教授は、プログラミング教育を手段として考えることや、PDCA サイクルの見直しなど、普通教育の中で指導する際の留意点について話されました。プログラミングの楽しさを体験してみることにより、人間の願いを実現するためにはプログラミングが有効な手段となることを知ることが大切だと話しています。また、行動から始め、その中で問題点や課題を見つけ、その解決策を新たな動きに結びつけるといった DCAP－D サイクルにすることが、学びの充実につながると話しました。

私は、ロボホンやドローンなどを動かして楽しかっただけでは、普通教育で求める教育的効果が大きいとは思えません。「活動あって学びなし」は、教育界では昔から活動を行うときの戒めとされてきたことです。活動後の見直しや修正といった体験が、学びでありプログラミング的思考の育成になると思います。

勿論、パソコンが使えることが前提になることは言うまでもありません。できるだけ多くの教科において、パソコンを使うメリットを子供たちに体験させることが求められると思います。

２　駿遠分教室・駿遠学園の学習発表会に参加して

２月 16 日（土)に行われた駿遠分教室・駿遠学園合同学習発表会を参観し、子供たちの頑張りに感動しました。同施設に所属する子供たちは、重い障害や難しい家庭環境を背負っています。しかし、どの子も精一杯頑張っていました。

特に感動したのは、和太鼓の演奏です。和太鼓は音を合わせることが難しいのに、とてもリズムが合っていたからです。どれだけの練習を重ねたのか分かりませんが、やればできる、やらせればできることを実証する演奏だったと思います。

特別支援教育に限らず、伸びる力を伸ばし切ることが大切です。この程度でよしとするのは、時として子供の可能性を狭めることになると戒める必要があります。

３　初中だよりから

「初中だより１月号」を読み、感動したので紹介します。記事の内容は、日本人で初めてオリンピックに出場した金栗四三選手の話です。金栗選手は、1912 年の第５回オリンピックストックホルム大会にマラソン選手として出場したものの、日射病で意識不明となり、

介抱された農家で翌日に目を覚まし、「マラソン中に消えた日本人」と言われた人です。
　この人のすごいところは、1916 年のベルリン大会（中止）、1920 年のアントワープ大会、1924 年パリ大会にも出場していることです。その後引退した金栗さんは、「カナクリシューズ」というマラソン専用靴を開発したり、箱根駅伝の礎を築いたりしています。
　これだけ長い間マラソンに関わったことも感動的ですが、金栗さんは 1967 年にスウェーデン・オリンピック委員会から招待され、54 年 8 ヶ月 5 時間 32 分 20 秒３でゴールテープを切った時、会場には「これをもって第 5 回ストックホルム・オリンピック大会の全日程を終了します。」というアナウンスが流れたそうです。
　金栗さんの夢を追い求める姿も素晴しいし、スウェーデン・オリンピック委員会の計らいも粋だと思いました。感動を共有したい皆さんは、初倉中の HP をご覧ください。

４　大坂なおみ選手について

　大坂なおみさんが女子テニス世界ランキング 1 位になったことは、多くの日本人が喜んだことだと思います。彼女を見ていると、次の二つのことを思います。
　一つは、会話力です。大坂さんは、たどたどしい日本語でインタビューに答えることがあります。時にはユニークな日本語を使うこともありますが、誰もがほほえましく思えるのは、彼女が誠意を持って精一杯伝えようとしているからです。彼女を見ていると、小学校の英語教育においては、話そうとする姿勢（気持ち）を大切にしなければと思いました。
　もう一つは、謙虚な姿勢です。世界のトップアスリートの中には、謙虚さの欠けると思われる選手もいますが、試合に勝っても相手選手に感謝を伝える彼女の姿勢が世界中から評価されていると聞きます。
　大坂さんを見ていると、礼儀正しさや思いやりの気持ちなど、日本人のよさと言われるものをきちんと育てておくことも、コミュニケーション力の育成と共に、グローバル社会で活躍が期待される子供たちには大切だと思います。

肘かけ椅子

高橋　淳　　学校給食課長

　先日、福井県の永平寺を参拝した。曹洞宗の総本山ということで参拝者も多く、また若い僧侶が修行する姿も見られた。朝の清掃にはじまり、おつとめなど、厳しいものがあるようだ。冬の深い雪、厳しい寒さにも耐え、数年の修行を積んで立派な僧侶として巣立っていく。私の生家も曹洞宗であるので、関心を持って参拝した。
　寺社内を歩いているとその一角に教えを書いたパネルが数枚並んでおり、何枚かを写真に収め、子供たちへライン送信した。その中の一つに、「はきものをそろえる」というパネルがあった。
　中部学校給食センターでは約 60 人と多くの職員が従事しており、事故・怪我なく順調に作業を行うためには協調性や他者への思いやりが重要である。
　例えばトイレのはきものを後の人のために揃えておく、洗剤やペーパーなどは補充するよう心掛ける、会議室の机・椅子は整えておく、日頃皆が実践していることである。
　教えのパネルにも「はきものをそろえると、心もそろう」「ぬぐときにそろえておくと心がみだれない」とある。整理整頓で心も落ち着く。慌しい毎日ではあるが、ちょっとした心遣いを持ち続けたい。